

今こそ再編斗争の

再確認を!!

昨年度の農学部再編斗争の一環としての校舎斗争は不完全なものも一定程度の成果として現在工事が進められている。

校舎がある。しかしながらこの校舎は教授中心。学生の方々に便利なものがあり、不十分そのためには自明である。そのため

再編斗争は三か年大量不正入学・下田謙ぎ・学ヒヨ争を終了中で、その裏が教育のキギとして把えられた。にもかかわらず個別明大農学部にあつては、昨年度の田交に於いて学友の発言講話を開かせてくれない。講話に四年生を使っている。しかし農教連は主体的に考らる。よりありかになつたようだ。

なんり農教連は、こととせず制度的不正とギン性に陥り何ら対応していなかった。之に農学ゼミの問題・実験等教授自身の教育キギとしての認識不足・社会連絡を把握せざり由に観念としての教育

にみられるように何より有効的な統括かれねばどうか、再編そのものから帝国主義的再編・権力の圧制再編と呼ぶしかへと通じることと同時に校舎のものが再編斗争のほうに徐々化されていく事を察しますのである。

再編斗争は学問の本質・研究の本質へ遙まる斗争といつてゐる事をすべての学友諸君は再確認し、我々の眞の欲求の上に立つて後期分の予算・設計・施行権を勝ち取つて我々の校舎を建てようではないか!

五二三 農教連 会田文で明らかにしよう